



TITLE:

1940年9月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

1940年9月の天象. 天界 1940, 20(232): 272-270

ISSUE DATE:

1940-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168039>

RIGHT:

1940年

9月の天象

太陽 “しし座”の南部から“をとめ座”に入る。23日に秋分點を通過して南半球に移る。秋も今や酣となる。曆によれば、二百十日が1日、白露が8日となつてゐる。時差は1日0時には-0分13秒であるが同日中に平均太陽は眞太陽を追ひ越して東方に進み、

次第にその差を増して月末には10分餘も離れる。カリントンの太陽自轉期は世界時の15.96（日本標準時の16日8時2分）より第1164期に入る。

月 今月16日の満月は“仲秋の明月”で“ベガスの正方形”の南方にあたつて皎々たる光を放つ。その他、2日に“しし座”で新月となつてブラウンの月相第219期が始まり、9日に“さそり座”の北方で上弦、25日に“オリオン座”“ふたご座”のあたりで下弦となる。

水星 今月前半は太陽に近くて觀望出来ない。即ち、月初、曉天に在るが次第に太陽に近づき4日外方會合となつて太陽を追ひ越し、宵空に姿を現はす。位置は太陽に従つて“しし座”から“をとめ座”に順行し、28日には“スピカ星”に北方から近づいて、その光を競ふ（光度-0.2）。11日24時には海王星の北2分角のところを通過する。

金星 曉の明星。“ふたご座”より“かに座”を横切つて月末には“しし座”に入る。5日22時には極大離隔で、太陽から西へ45度57分離れるが、以後徐々に太陽を追つて行く。28日19時には“しし座”の東端で月が金星の南方3度37分のところを通る。光度は月初-4.0から月末-3.8となり、視直径は月初25.2秒角から月末18.8秒角に漸減する。

火星 8月30日に太陽と會合したばかりであるから、この月はまだ時季外れである。“しし座”の南部から“をとめ座”β星附近まで順行してゐる。光度は2.0、曉の星。

木星 土星と共に“ひつじ座”に在つて秋の夜の同好者をなぐさめてくれる。月初順行してゐるが5日5時に停留となつて逆行に移り、先月末以來逆行してゐる土星を追つて行く。光度は月初-2.2から月末-2.4に増す。極視直径も40.9秒角から44.5秒角に漸増して行く。21日7時半に月と會合（月の北1度39分）する。

土星 “ひつじ”座を逆行中で、木星の僅かばかり南西の方に在り、光度は0.4（月初）乃至0.2（月末）である。21日6時半に月と會合（月の北20分角）する。

本體の極視直径は月初17.0秒角、月末17.8秒角。

天王星 “うし座”のプレヤデスの南方5度ばかりのところにある。光度6.0、視直径は月初3.5秒角、月末3.6秒角。今年1月27日以来順行中のところ、9月1

日14時に停留となり、逆行に移る。22日4時半、月と會合する（月の北3度31分）。

海王星 “をとめ座” β 星附近を順行中。光度8。18日に太陽に追いつかれ、合となるため、この月は觀望に適さない。11日水星と合。29日8時火星と會合（火星の北13分角）。

冥王星 “かに座”の中程を順行中。太陽系の奥の奥に悠久の歩みを續けてゐる。この星の觀測のためには世界第一の望遠鏡を要する。

流星 9月には著しい流星群はないが、觀測の條件には恵まれた時季ではあり、觀測に興味をもつ人々の努力はたえず、要望せられてゐる。觀測についての諸注意は別項“流星課だより”を参照のこと。

黃道光 いよいよ黃道光の時季となる。暁天の金星の輝きには悩まされるが、熱心な觀測家に俟つところは多い。黃道光の觀測と研究に於てわれわれに與へられてゐる特別な使命の自覺は、われわれの心に、絶えざる火を燃しつけてくれる。一人一人の觀測家が長い忍耐をもつて熟練した觀測者となつていただきたいものである。

九月の星座 ななめに天を横切つて流れる銀河の美しい跳めを中心として、初秋の星空は、宵の一時を忘れさせてくれる。

北天では“おほくま”は既に山蔭に落ちて“カシオペヤ”が高く上つてきた。これにつづく“アンドロメダ”“ペルセウス”や“セフェウス”などの織りなす古い物語は暫く措くとしても、この廻り小望遠鏡に星を楽しむものに數々の對象を與へてくれる。“アンドロメダ”は“ペガソス”につづき、この有名な大方形は天の原點を指し示す。

南に目を移して行けば、“みづがめ”“やぎ”が捉へ難い姿をあらはし、その下に“みなみうを”の首星“フオマルホート”が淋しく輝いてゐるが地平に近いため忘れられ勝ちである。

夏の觀ものであつた“さそり”はもはや西の地平線に低く横たはつてしまつた。“いて”の矢も昔日の勢を失つたやうだ。

中天には“こと”“わし”の二星座が銀河を挟んでその美を競つてゐる。“エガ”と“アルタイル”は“アクトウル”“アンタレス”の既に没せんとするとき、たゞ二つきりの一等星である。

やがて夜も更ければ、木星と土星を伴つた“ひつじ座”が東の山の端に上つてくる。

九月の天體曆表

日附	七曜	正午月齢	干支	天 界 現 象 (日本標準時)	ユリウス日 (21時)
1	日	28.3	丁未	二百十日 天王星が東留(14時)	2429874.0
2	月	29.3	戊申	{ 新月(13時15分) 水星が月と會合 (12時半) 火星が月と會合(14時半) X Aqr と W Crb が極大	875.0
3	火	0.9	己酉	{ 水星と火星と會合(8時) 海王星が 月と會合(15時) R UMa が極大	876.0
4	水	1.9	庚戌	水星が外合(21時) RU Sgr が極大	877.0
5	木	2.9	辛亥	{ 木星が東留 金星が西方極大離隔 X Cet と U Per が極大 Z Peg が極小	878.0
6	金	3.9	壬子	T Sgr が極大	879.0
7	土	4.9	癸丑	U Eri が極大 S Her と Lib が極小	880.0
8	日	5.9	甲寅	白露(4時37分)	881.0
9	月	6.9	乙卯	上弦(4時32分)	882.0
10	火	7.9	丙辰	V Cas が極大	883.0
11	水	8.9	丁巳		884.0
12	木	9.9	戊午	{ 水星と海王星と會合(0時, 水星が2' 北) RR Cap が極大 T Lyn が極小	885.0
13	金	10.9	己未		886.0
14	土	11.9	庚申	V Cnc が極大 V Gem が極小	887.0
15	日	12.9	辛酉	V Peg が極小	888.0
16	月	13.9	壬戌	{ 仲秋の名月 満月(23時41分) S Hya が極大	889.0
17	火	14.9	癸亥	RR Agr が極大 R CVn と T Lep が極小	890.0
18	水	15.9	甲子	海王星が太陽と會合(17時) R Lyn が極小	891.0
19	木	16.9	乙丑		892.0
20	金	17.9	丙寅	彼岸入	893.0
21	土	18.9	丁卯	{ 土星が月と會合 木星が月と會合 R Aur と S CrB と α Cyg と RU Her が極大	894.0
22	日	19.9	戊辰	{ 社日 天王星が月と會合 X Aql と U Ori が極小	895.0
23	月	20.9	己巳	{ 秋分(13時54分) 秋季皇靈祭 水星が降交點(10時) RR Hya が極大	896.0
24	火	21.9	庚午	R Vul が極大	897.0
25	水	22.9	辛未	下弦(2時47分) R Dra と T Her が極小	898.0
26	木	23.9	壬申	R Vir が極大	899.0
27	金	24.9	癸酉	R Col と W Cyg が極大 T UMa が極小	900.0
28	土	25.9	甲戌	金星が月と會合 W Her が極大	901.0
29	日	26.9	乙亥	火星が海王星と會合 V Oph が極大	902.0
30	月	27.9	丙子	R Boo が極小	903.0